

半歩の壁

死に学び、生を考える

高齢多死社会が加速する中の、これからの医療のあり方、
そして「死生観の転換」を問う。

延命治療の現場では、緩和医療やホスピスケアの充実、推進に理解を示すようになってはきた。しかし安楽死そのものの核心に手を突っ込むことはしない。医学はそもそも人間を生かすためにこそ存在する。死に手を貸すことなどをもっての外、の一点張りを通してきたからだ。

人間における「死の現場」、あるいは「死に逝く場所」に立ち入ることを禁ずる思想であり、哲学であると言っていいだろう。人が病室で死ねば、医師は首を垂れ、言葉少なく静かに病室を去っていく。

あと一步、あと半歩前に進めば、そこにはまだ「死の場所」があるというのに、背中を見せて去っていく。あと一步、あと半歩を進めば、見渡すかぎり広大な死の世界が広がっているのに去っていく。

日本人には、死を心臓死ではなく「老病死」ととらえてきた歴史があると、宗教学者の山折哲雄は言う。いま、その思想をあらためてとらえ直すべきではないか。



著者略歴

山折 哲雄(やまおり てつお)

1931年、米・サンフランシスコ生まれ。東北大学文学部印度哲学科卒業。宗教学者として国際日本文化研究センター名誉教授(元所長)、国立歴史民俗博物館名誉教授、21世紀高野山医療フォーラム副理事長、総合研究大学院大学名誉教授などを歴任。著書は『日本人の靈魂観』『義理と人情』『生老病死』など多数。和辻哲郎文化賞、NHK放送文化賞、南方熊楠賞ほか受賞。

中橋 恒(なかはし ひさし)

1951年、長崎市生まれ、金沢大学医学部卒業。松山ベテル病院院長。がんに関わる現場の医師を志し呼吸器外科医として肺がん診療に携わる。緩和ケア医を志し50歳でメスを置き、松山ベテル病院において終末期がん患者のホスピスケアに従事。日常診療に従事する傍ら、愛媛県在宅緩和ケア推進モデル事業に関わり県内各地での普及と啓発活動を行っている。分担執筆著書に岡田晋吾編『がん診療の地域連携と患者サポート』(医学書院)がある。

貴店印・帳合 ご担当 様	ご注文数 冊	<div style="text-align: center;"> <h2>半歩の壁</h2> <p>死に学び、生を考える</p> <p>山折哲雄・中橋恒/著</p> <p>定価：2,200円(10%税込)</p> <p>ISBN978-4-910739-39-7</p> <p>発売日：2023年10月5日</p> </div> <div style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 5px;"> 四六判型/216頁 </div> <p>PHPエディターズ・グループ</p>
-----------------------------	-----------------------	---

発行

PHPエディターズ・グループ

〒135-0061
東京都江東区豊洲5-6-52 11階
☎ 03-6204-2931
FAX 03-6204-2932

ご注文はJRCへ▶▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い
すべての取次への出荷が可能です。